

企業会員セミナー第1回

日時：2022年5月20日（金）18:30～19:30

テーマ：「補助金・助成金の活用」

府協会会員 中小企業診断士 石井誠宏

（1）補助金について

中小企業診断士の資格取得後、独立コンサルタントとして10年間、企業の業務改善や商店街などの団体支援を中心に様々な支援を実施してきております。もちろん、補助金に関連する仕事も受け持っており、国の方針を踏まえた内容をお伝えします。

補助金・助成金については概算要求の予算額を基に、事業再構築補助金、ものづくり補助金、IT導入補助金の概要についてポイントをお話しします。特にIT導入補助金は制度も変わって、今までよりも使いやすくなっています。補助金の特徴として国の政策にあった事業に対して枠が用意されており、「グリーン」「デジタル」「海外展開」などに取り組みたい企業にとっては活用しやすくなっています。同様に「生産性向上」や「事業承継」「事業再生」などへの取組に対しても国として支援が厚くなっています。補助金は国の目指す方向に合う企業を応援する取り組みであることは意識しておくことは大切です。

厚労省の補助金にも、雇用調整助成金だけでなく、「賃上げ」「デジタル化」「テレワーク」を推進する企業が使えるものがあります。ただ、失敗しないためには補助金や助成金をもらうこと自体を目的とするのではなく、やりたいことを先に決めて、補助金を活用することを検討頂くことが大切です。やりたいことを決めるのは社長の仕事であり、代わりをできる人はいません。補助金申請に向けての支援は中小企業診断士が得意とするところであり、気軽にご相談・活用して頂きたいです。

（2）中小企業診断士のこと

次に中小企業診断士の活用方法です。近年は「中小企業診断士」＝「補助金」という認識が広まっていますが、あくまでも補助金は支援の中の一分野に過ぎません。経営戦略、人事、財務、営業など、究極的には企業の悩み事全てが診断士のフィールドです。現在、中小企業に対する支援の方法として伴走支援ということがテーマになっています。実際に伴走支援はこれまでも中小企業診断士が得意としている支援の方法で、色々な手法はあるのですが、定期的に社長と一緒に試算表や社内の管理資料を基に状況をチェックしながら、今後の企業活動の方向性や具体的な改善手順について一緒に検討をするのが一般的です。

近年は一般企業で働きながら、兼業でコンサルタントを行っている人も増えており、補助金関連の支援は特に兼業コンサルタントが積極的に取り組んでいます。また、各種テーマについて知識の研鑽を行う研究会活動も盛んで、専門的な分野への支援もおまかせください。

（3）まとめ

経営の様々な悩み事があれば、気軽に中小企業診断士に相談してください。課題の種類に

よっては弁護士さんや会計士さんとタッグを組むこともよくあります。今回、大阪府中小企業診断協会が発足した企業会員制度を一つのきっかけとして、経営における色々なシーンで中小企業診断士をご活用頂き、皆様の会社の改善に寄与できれば幸いです。

テーマ：「企業の上手い！情報発信」

府協会会員 中小企業診断士 戸田博子

読売新聞の経済記者として 25 年以上、大阪や京都、東京で企業や官庁取材しました。その後、広報宣伝部長を 3 年務め、「取材される側」「情報発信する側」も経験しています。現在、事務局長を務める、社長直属「新聞のちから」委員会は、企業や大学向けに、新聞を活用し、社員や経営トップの「読む・書く・話す」力を伸ばす研修を手がけています。発足後 4 年余りで、顧客は 160 社・団体に広がりました。情報発信や危機管理の講義も人気で、今日はそのエッセンスをお伝えします。

（１）いい話の情報発信（PR）

「いい話」を情報発信したい時、大事なものは、取材する記者、そして読者に伝える物語の基本となる 4 要素を探すことです。

- ①なぜ今、報じるのか。季節性と社会性。
- ②なぜ当社か。他社との違いは。
- ③商品・サービスの今後の展開。消費者の価値観、世の中の変化は？
- ④識者談話、データ、開発者・消費者の声。社会的意義。

これらを意識し、情報を組み立てます。大企業でなくても情報発信はどんどんできます。ただ、「情報発信」には、「情報収集」が欠かせません。社長だから自社のことは何でも知っている、ではダメなのです。他社の動き、業界の中での立場や世界の潮流を知ることで、自社の偏らない情報を得る。自社の新規性（まさに“NEWS”です）を知ることで自信を持って情報発信できるようになります。

（２）悪い話～危機管理

不祥事があった場合、記者や世間にどう対応し、情報発信するかは、会社の存続に関わる重大事です。上手く対応するには、常に自社にとって最悪のケースを想定し、対応策を考えておかないといけません。「倒産を防ぐために、何をすべきだったか」「もし、自分だったら」…こういったことをシミュレーションしておけば、いざという時、落ち着いて対処できます。新聞には他人の失敗が数多く載っています。「失敗しないために新聞を読む」こともできるのです。

不祥事記者会見の記事は、写真もよく見てください。どんな表情がどのように掲載されるか。どんな態度・対応が世間から反感を買ってしまうかも学べます。

また、新聞記事は、わかりやすく情報を伝えるための「逆三角形」で構成されています。

ぜひ参考にしてください。

(3) まとめ

みなさんは経営者として社員として、よい商品、よいサービスを実現し、成長しようと、日々、努力されています。熱意のある情報発信は、成長を加速させます。中小企業診断士がプロとしてみなさまをサポートさせていただいているように、メディアもみなさんの発展を支えたいと考えています。そのためには、今日お伝えしたことをヒントに、情報発信に取り組んでみてください。みなさんのご活躍を楽しみにしています。